

創立150年記念特集

時代を語る洋画たち

東京国立博物館の隠れた洋画コレクション

Timely Connections: Hidden Western-Style Paintings in Tokyo National Museum

令和4年(2022)6月7日(火)～7月18日(月・祝)

東京国立博物館 平成館企画展示室

日本と東洋の古美術コレクションのイメージが強い東京国立博物館(以下、東博)。しかし、博物館の草創期の頃から、欧米作家の作品を含む、洋画も多く収蔵しています。それらは制作とほぼ同時期に収蔵されており、博物館がつねに同時代とのかかわりをもって活動していることを雄弁に物語ってくれます。

この特集では、それらの洋画作品を、おもに収蔵経緯に着目して「世界とのつながり」「同時代美術とのつながり」「社会・世相とのつながり」という三つの観点から紹介します。

展示を通し、時代の証言者としての作品の意義と、博物館の活動が、作品を通して時代の流れとつながっているものであることに思いを馳せていただければ幸いです。

In its early years, Tokyo National Museum collected paintings and prints in Western styles by living artists, though these works are rarely displayed due to current exhibition policies. The paintings and prints exhibited here show how the museum grew and evolved while maintaining close relationships with contemporary art and society. This exhibition considers these works from three perspectives: I. Connections with the World, II. Connections with Contemporary Art, and III. Connections with Social Conditions.



I 世界とのつながり

Connections with the World

明治5年(1872)の旧湯島聖堂大成殿での博覧会を機に発足した東博は、当初から、万国博覧会への参加や、海外の博物館との収蔵品の交換事業などを通して世界とつながっていました。その後も、各時代において、個人や団体からの寄贈によるつながりは続いています。

この章では、我が国初のまとまった西洋画コレクションとの評価もあるグラスゴー博物館(現 グラスゴー博物館群)との交換事業で収蔵された作品と、駐日オランダ大使から友好の記念に寄贈された作品を紹介します。



1 夕日の港 原本：クロード・ロラン

Seaport Sunset
In the style of Claude Lorrain

キャンバス、油彩 イギリス・19世紀

A-697 明治12年(1879)グラスゴー博物館寄贈



2 スコットランド高地に潜むチャールズ・エドワード王子

ロナルド・ロバート・マクイアン

Prince Charles Hiding in the Scottish Highlands

By Ronald Robert McLan

キャンバス、油彩 イギリス・19世紀

A-714 明治12年(1879)グラスゴー博物館寄贈



3 肖像

伝ニコラス・ファン・ラヴェステイン

Portrait

Attributed to Nicholas van Ravesteijn

キャンバス、油彩 オランダ・18世紀 A-11123

昭和28年(1953)ベトラス・テッペマー氏寄贈

当時のグラスゴー博物館と文部省博物館との間で、交易振興を目的としておもに産業見本の交換が行なわれ、途中でイギリスやヨーロッパの文化を伝える油彩画23点と石版画15点も追加されました。No.1は、当時のイギリス富裕層に模写、模倣作までも珍重されたクロード・ロラン(～1682)の人気を伝える作品、No.2は、王位回復を目指すチャールズ・エドワード・ステュアート王子の故事を描いた、1844年のロンドンのロイヤル・アカデミーに展示されたと考えられる作品です。

テッペマー初代駐日オランダ大使から、「日本人々と親愛を深めた記念に」と寄贈されたものです。戦後の海外との交流の一端を示すものとして貴重です。

II 同時代美術とのつながり

Connections with Contemporary Art

19世紀末から20世紀初めの作品も、収蔵当時は博物館と同時代美術とのつながりを語る作品といえるものでした。

この章では、当時の日本の美術界に最新の西洋美術を紹介し、新しい時代の美術を生み出す糧となるようにとの思いを込めて収蔵された作品を紹介します。中には、作家を支援し制作を奨励するために買い上げられた、公募美術展の優秀作品も含まれます。



4 富士山腹帰樵 アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ

Mount Fuji with Woodcutters on Their Way Home

By Alfred William Parsons

紙、水彩 明治25年(1892) A-723 明治26年(1893)購入

イギリスの水彩画家アルフレッド・パーソンズ(1847～1920)は明治25年に日本を訪れ、その滞在記として『日本印象記』を刊行しました。岡倉天心を介して博物館が購入した本作品は、その挿図として掲載されており、富士登山を終え下山の折に目にした景を描いたものであることがわかります。



5 水汲み婦、ブラバンの夕暮れ ロドルフ・ウィッツマン

Evening in Brabant with a Woman Carrying Water

By Rodolphe Wytzman

キャンバス、油彩 ベルギー・19世紀 A-736 明治32年(1899)購入

ベルギーの画家ロドルフ・ウィッツマン(1860～1927)による本作品は、明治30年(1897)の第2回白馬会展と翌年の第3回展に出品され、帝国博物館(現 東博)が購入しました。薄明りの中の田園風俗という主題は、黒田清輝(1866～1924)ら白馬会の画家の好みとも通じます。中澤弘光による模写が現存します。



6 鏡
黒コンテ A-910-4
The Mirror



7 スローンスクエア駅
黒コンテ、インク A-910-21
Sloan Square Station



8 ブレスト港の古い碇
黒コンテ、木炭 A-910-66
Old Anchor at Brest Port



9 オーケストラの打楽器奏者たち
エッチング A-910-100
Orchestra Percussionists



10 二人の踊り
エッチング、アクアチント、ドライポイント
A-910-116
Dance for Two



11 雛鳥
エッチング A-910-131
Chicks

6~11 素描・版画集 シャルル・ポール・ルヌアール
Sketches and Prints By Charles Paul Renouard
フランス・19世紀 A-910 大正4年(1915)林忠雄氏寄贈

ポール・ルヌアール(1845~1924)は、パリを中心に活躍した報道挿絵画家です。19世紀末に盛行した絵入り新聞や雑誌で、当時の社会・風俗のさまざまな場面を、的確な観察眼、描写力で描いた膨大な素描や版画作品を残しています。同じ時期にパリで活躍し、日本美術をヨーロッパに紹介した美術商の林忠正(1853~1906)は、彼の素描を惚れ込み、日本の美術家たちに自然観察、素描の重要性を伝えるために日本で公開することを企図しました。没後、そのコレクションは子息から東京帝室博物館(現 東博)に寄贈されました。



12 画室 猪熊弦一郎

Atelier
By Inokuma Gen'ichirō
カンバス、油彩 昭和8年(1933) A-12339
昭和8年(1933)黒田子爵記念美術奨励資金委員会寄贈

©公益財団法人ミモカ美術振興財団



13 母子 松下春雄

Mother and Child
By Matsushita Haruo
カンバス、油彩 昭和5年(1930) A-12340
昭和9年(1934)黒田子爵記念美術奨励資金委員会寄贈

近代日本の洋画界を牽引した黒田清輝は大正13年に死去しますが、その翌年、一周忌の記念事業として、美術奨励金を集めて黒田子爵記念賞が設けられることとなりました。この事業は、新進洋画家の優れた作品を奨励金で買い上げ、東京帝室博物館などへ寄贈するというかたちで、昭和戦前期まで続けられています。No.12、13も、同事業によって買い上げられました。

本作品は昭和5年の第11回帝展に入賞しましたが、松下春雄(1903~33)は同8年、30歳の若さで急逝します。翌年に遺作が光風会で特別陳列されたのを受け、その年の帝展特選作から選ぶという黒田子爵記念賞の通例を破って同作が買い上げられました。

III 社会・世相とのつながり

Connections with Social Conditions

コレクションの中には、購入や寄贈によることはわかっても、具体的な収蔵の背景、経緯を示す記録が残っておらず、今の収集方針から考えるとなぜ収蔵したのか不思議に思われる作品もあります。しかし、作品内容と収蔵時前後の社会情勢や世相、そして東博の歴史を合わせて繙いていくと、コレクションの中での意義がみえてくる場合もあります。

この章では、時代ごとの社会・世相とのつながりの中で、その時代を象徴するような作品を紹介します。



14 ローレンツ・フォン・シュタイン像

アルウィン・フォン・シュタイン

Portrait of Lorenz von Stein

By Alwin von Stein

キャンバス、油彩 オーストリア・1887年 A-1426
昭和12年(1937)宮内省用度課から引継ぎ

伊藤博文にプロイセン式の立憲体制を薦めて、大日本帝国憲法制定のきっかけを与えたローレンツ・フォン・シュタイン(1815~90)を描いた本作品は、関東大震災の被害から復興した新しい本館(現 東博本館)の開館前年に宮内省用度課から引継がれています。宮中にこの肖像画があったのは、シュタイン親子と親交が深かった、明治天皇侍従の藤波言忠の関与が一つの可能性として考えられます。新しい本館の開館に向け、博物館に移されたのかもしれない。



15 世界大戦写生図

テオフィル=アレクサンドル・スタンラン

Sketches from the World War

By Théophile-Alexandre Steinlen

リトグラフ フランス・1915~16年 A-1333 昭和9年(1934)購入

スタンラン(1859~1923)は、社会風刺・政治批判を含めた素描や版画で活躍した画家。本作品は昭和9年の松方氏蒐集欧州絵画展覧会に出品されました。戦争に向かう世相に対する博物館としてのひそやかな意思表示だったのかもしれない。



16 上野駅址

A-10118-41

The Former Ueno Station



17 上野公園における避難民とバラック

A-10118-42

Refugees and Temporary Buildings in Ueno Park



18 浅草仲店より観音堂

A-10118-44

Kannon Hall from Asakusa
Nakamise Street



19 吾妻橋

A-10118-47

Azumabashi Bridge

16~19 大正震災焼跡写生図 田代二見 Sketches of Fire-Ravaged Tokyo after the Great Taishō Earthquake By Tashiro Futami
キャンバス、油彩 大正12年(1923) A-10118 昭和16年(1941)田代二見氏寄贈

田代二見(1890~1960)は油彩画・水彩画・俳画などを制作し、『原理日本』などで美術論も展開した作家。本作品は全54面で、作者から寄贈されました。ほぼ同図様の作品が東京都復興記念館にも所蔵されますが、本作品とは微妙な違いがあります。震災から18年後の寄贈の理由は不明ですが、東博としては新しい本館(復興本館)の開館を機に、震災の記憶をとどめるため寄贈を受けたのかもしれない。



22 画家とその妻

レンブラント・ファン・レイン

A Painter and His Wife

By Rembrandt van Rijn

エッチング オランダ・1636年

A-10940 昭和25年(1950)購入

東京帝室博物館は、昭和22年(1947)5月に国立へ移管されました。そして、日本に常設の近代美術館が設立されるまで、東博の表慶館を日本および西洋の近代美術の常設展示室とする方針が出されました。表慶館の展示は、昭和23年6月から始まり、レンブラント(1606~69)作品などの19世紀以前の作品も展示されました。本作品はレンブラント生誕350年を6年後に控えた昭和25年購入で、背景にはそうした戦後の社会要請も考えられます。その後、東京国立近代美術館が昭和27年、国立西洋美術館が昭和34年に開館しました。



20 ヘルコニアビハイ

A-10097-6

Heliconia Bihai



21 ナイトブルーミングセレウス

A-10097-3

Night-Blooming Cereus

20,21 版画 南国の花 シャーリー・ラッセル

Prints: Tropical Flowers by Shirley Russell

木版、多色摺り 作画:アメリカ、摺り:日本 1935年 A-10097 昭和16年(1941)シャーリー・ラッセル氏寄贈

シャーリー・ラッセル(1886~1985)は、ハワイを拠点にハワイやハワイの花を題材にした作品を描いた画家です。新版画で著名な渡辺木版美術画舗から作品を刊行しました。本作品は作者から寄贈されたもので、裏面に「MADE IN JAPAN」と摺られていることから、海外向け作品と考えられます。寄贈経緯は不明ですが、冷え込んだ日米関係打開のために民間外交が行なわれていた時期であり、文化による両国の関係改善への意図が込められていたのかもしれない。

※一部の作品は著作権者が判明しておりません。お心当たりのある方は、当館までご一報いただきたく謹んでお願い申し上げます。



創立150年記念特集 時代を語る洋画たち—東京国立博物館の隠れた洋画コレクション

2022年6月7日発行

執筆: 沖松健次郎(東京国立博物館)、塩谷純、吉田暁子(以上、東京文化財研究所)、撮影: 藤瀬雄輔、吉岡由哲、翻訳: 足立奈緒子(以上、東京国立博物館)

制作・印刷: 精興社 編集・発行: 東京国立博物館

©2022 東京国立博物館 Tokyo National Museum